

表4-4 新体力テストの調査項目記録票(平成22年度全国体力調査児童調査票)

種目		記録				得点
① 握力	右 <small>※小数点以下は切りすて</small>	1回目	<input type="text"/> kg	2回目	<input type="text"/> kg	
	左	1回目	<input type="text"/> kg	2回目	<input type="text"/> kg	
	平均	※平均を求めるときは、左右おのおのの良いほうの記録を平均し、小数点以下を四捨五入する			<input type="text"/> kg	
② 上体起こし			<input type="text"/> 回			
③ 長座体前屈	<small>※小数点以下は切りすて</small>	1回目	<input type="text"/> cm	2回目	<input type="text"/> cm	
④ 反復横とび		1回目	<input type="text"/> 点(回)	2回目	<input type="text"/> 点(回)	
⑤ 20mシャトルラン(往復持久走)		※折り返した回数を記入			<input type="text"/> 回	
⑥ 50m走	<small>※切り上げて1/10秒まで記入</small>		<input type="text"/> 秒			
⑦ 立ち幅とび	<small>※小数点以下は切りすて</small>	1回目	<input type="text"/> cm	2回目	<input type="text"/> cm	
⑧ ソフトボール投げ	<small>※小数点以下は切りすて</small>	1回目	<input type="text"/> m	2回目	<input type="text"/> m	
得点合計						
総合評価		A B C D E				

## 2) テスト項目得点を合計して体力・運動能力を測る

表4-5は、全国体力調査の活用シートに掲載されている6歳から11歳対象の新体力テストの男女別の「項目別得点表」と10歳対象の「総合評価表(総合評価基準)」を示している。6歳の小学1年生から11歳の小学6年生までと12歳の中学1年生から19歳までは、それぞれ共通の項目別得点表を用いるので、体力・運動能力の発達を継続的に観察・評価することが可能である。

表4-5 新体力テストの項目別得点表と総合評価表(総合評価基準)

男子									女子								
得点	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	得点	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ
10	26kg以上	26回以上	49cm以上	50点以上	80回以上	8.0秒以下	192cm以上	40m以上	10	25kg以上	23回以上	52cm以上	47点以上	64回以上	8.3秒以下	181cm以上	25m以上
9	23~25	23~25	43~48	46~49	69~79	8.1~8.4	180~191	35~39	9	22~24	20~22	46~51	43~46	54~63	8.4~8.7	170~180	21~24
8	20~22	20~22	38~42	42~45	57~68	8.5~8.8	168~179	30~34	8	19~21	18~19	41~45	40~42	44~53	8.8~9.1	160~169	17~20
7	17~19	18~19	34~37	38~41	45~56	8.9~9.3	156~167	24~29	7	16~18	16~17	37~40	36~39	35~43	9.2~9.6	147~159	14~16
6	14~16	15~17	30~33	34~37	33~44	9.4~9.9	143~155	18~23	6	13~15	14~15	33~36	32~35	26~34	9.7~10.2	134~146	11~13
5	11~13	12~14	27~29	30~33	23~32	10.0~10.6	130~142	13~17	5	11~12	12~13	29~32	28~31	19~25	10.3~10.9	121~133	8~10
4	9~10	9~11	23~26	26~29	15~22	10.7~11.4	117~129	10~12	4	9~10	9~11	25~28	25~27	14~18	11.0~11.6	109~120	6~7
3	7~8	6~8	19~22	22~25	10~14	11.5~12.2	105~116	7~9	3	7~8	6~8	21~24	21~24	10~13	11.7~12.4	98~108	5
2	5~6	3~5	15~18	18~21	8~9	12.3~13.0	93~104	5~6	2	4~6	3~5	18~20	17~20	8~9	12.5~13.2	85~97	4
1	4kg以下	2回以下	14cm以下	17点以下	7回以下	13.1秒以上	92cm以下	4m以下	1	3kg以下	2回以下	17cm以下	16点以下	7回以下	13.3秒以上	84cm以下	3m以下

  

総合評価基準 (男子・女子共通)	段階	A	B	C	D	E
10歳	65以上	58~64	50~57	42~49	41以下	

※総合評価は8種目全部実施した場合に判定します。  
 ※体力合計点で判定します。

「項目別得点表」の第1の役割は、8項目の実技テストの体力・運動能力を相対的に示すことである。新体力テストでは、長座体前屈の測定値の単位はcm、握力の単位はkg、50m走の単位は秒のように、異なる単位の測定値が得られる。この異なった単位の測定値を、単位が共通な10点満点の「ものさし（尺度）」に変換することにより、8項目の実技テスト結果を合計することが可能となる。それぞれ1点から10点の8項目の得点を合計するために、体力合計点は8点から80点の範囲に分布する。

「項目別得点表」の第2の役割は、体力・運動能力のバランスを評価することである。項目ごとに測定値に対応する欄にマークすることで、横並びの8項目の得点に分かる。

このバランスは、八角形のレーダーチャートで確認することができる。レーダーチャートでは、8項目の得点を中心から外側へ放射状に配置されており、10点の方向に広がった大きな八角形になるように、バランス良く向上することが望ましい。

「項目別得点表」の第3の役割は、体力・運動能力の向上のための目標を分かりやすく示すことである。例えば、項目ごとの得点を1点上げるためにはあとどれくらい必要かが分かり、目標を簡単に設定することができる。具体的な目標が児童生徒の体力向上につながる動機付けとなり、児童生徒は体力・運動能力向上のために何が必要なのかを主体的に考えるようになる。例えば、1週間の総運動時間を増やすことや、基本的な生活習慣を改善することなどである。この過程が主体的な問題解決能力の育成につながる。

このように、「項目別得点表」を活用することにより、「体力・運動能力のバランスの評価」や「項目別得点による測定値の目標の設定」ができ、児童生徒自身が主体的に体力・運動能力の向上を目指し、PDCAサイクルを実践することができる。

### 3) 体力合計点で体力・運動能力を総合評価する

「総合評価表（総合評価基準）」を用いて、体力合計点から体力・運動能力をA～Eの5段階で評価することができる。5段階での総合評価は年齢別の相対評価である。

学校の体力向上の取組の効果は、A段階やB段階の増加と、D段階やE段階の減少から確認できる。多くの実践事例では、体力・運動能力の向上の成果として、A率とB率が増加し、D率とE率が減少している。この増減は、「(AB-DE) 率」指標で簡単に捉えることができる。

「(AB-DE) 率」は、

$$\left[ (A率 + B率) - (D率 + E率) \right]$$

から算出する。

現在の体力・運動能力水準が昭和60年頃水準までに回復するためには、学校の取組の成果として、A～Eの5段階評価におけるD率とE率が減少するとともに、A率とB率が増加することが重要である。したがって、学校の取組の成果としては、(AB-DE) 率が増加することが極めて重要である。

### 4) 新体力テスト（6歳～79歳）の構成と評価方法

表4-6は、新体力テストの実技テストの構成、すなわち、対象年齢区分ごとのテスト項目と評価方法を示している。

表4-6 新体力テスト(6歳～79歳)のテスト項目と評価方法

対象年齢	テ ス ト 項 目		評 価 方 法
	全年齢共通	各 対 象 年 齢 別	
6 ～ 11 歳	握力  上体起こし	反復横とび 50m走 立ち幅とび ソフトボール投げ 20mシャトルラン(往復持久走)	男女別 項目別 1～10点 ↓ 年齢別 総合評価(A～E)
12 ～ 19 歳	長座体前屈	反復横とび 50m走 立ち幅とび ハンドボール投げ 持久走(男子1500m、女子1000m) または 20mシャトルラン	男女別 項目別 1～10点 ↓ 年齢別 総合評価(A～E)
20 ～ 64 歳		反復横とび 立ち幅とび 急歩(男子1500m、女子1000m) または 20mシャトルラン	男女別 項目別 1～10点 ↓ 年代別 総合評価(A～E) + 体力年齢(年代別)  ※年代は5歳刻み
65 ～ 79 歳		開眼片足立ち 10m障害物歩行 6分間歩行 ADL(日常生活活動テスト)	男女別 項目別 1～10点 ↓ 年代別 総合評価(A～E)  ※年代は5歳刻み

新体力テストは、4つの年齢区分に応じて内容が構成されている。年齢区分は、6歳から11歳対象、12歳から19歳対象、20歳から64歳対象、65歳から79歳対象である。この幅広い対象年齢範囲は、生涯を通じて自分の体力を把握し、改善に生かすためである。そのうち全国体力調査では、小学5年生には6歳から11歳対象のテスト項目を用い、中学2年生には12歳から19歳対象のものを用いている。

小学生と中学生を対象とする新体力テストの実技テストは8項目から構成されており、表のとおり体力合計点は80点、総合評価はA～Eの5段階で示される。20歳～64歳、65歳～79歳については、実技テストは6項目で構成され、総合評価はA～Eの5段階で示されるとともに、20歳～64歳は体力年齢判定基準による評価も行われている。

### (3) 体格から肥満瘦身の出現率を評価する

表4-7は、体格の調査項目を示している。体格の項目は、身長、体重、座高の3項目である。

表4-7 体格の調査項目(平成22年度全国体力調査児童調査票)

10	体格(小数第1位まで)	(1) 身長 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> cm	(2) 体重 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> kg	(3) 座高 <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> cm
----	-------------	--	--	--

全国体力調査では、学校の定期健康診断で計測した身長、体重、座高を転記し、身長と体重から標準体重法を用いて肥満と痩身を判定することができる。

**〈肥満傾向児・痩身傾向児の出現率の算出・判定方法〉**  
「児童・生徒の健康診断マニュアル（改訂版）」より  
平成18年3月31日発行（財）日本学校保健会

・標準体重 (kg) = a × 身長 (cm) - b  
・肥満度 (%) = [自分の体重 (kg) - 標準体重 (kg)] ÷ 標準体重 (kg) × 100

標準体重を求める係数				判定基準		
年齢	男子		女子		肥満度	判定
	a	b	a	b		
10(小5)	0.752	70.461	0.730	68.091	50%以上	高度肥満
13(中2)	0.815	81.348	0.655	54.234	30 ~ 49.9%	中等度肥満
					20 ~ 29.9%	軽度肥満
					-19.9 ~ 19.9%	正常
					-29.9 ~ -20%	やせ
					-30%以下	高度やせ

学校の取組としては、学年性別ごとに肥満度を確認し、児童生徒の状況を把握するとともに、各学年における肥満傾向児出現率を減少させるなど、体力・運動能力の向上を目指す取組の計画に生かすことができる。

#### (4) 運動習慣を測る

表4-8は、運動習慣や1週間の運動・スポーツの実施状況を調査するための調査項目を示している。このうち、運動習慣の項目は、質問4～質問6の3項目である。

「運動部や地域スポーツクラブへの所属」は、1週間の運動・スポーツ時間や運動機会に影響する項目であり、学年、性別ごとの運動部活動や地域スポーツクラブへの参加状況を調査するための評価項目となる。

「運動・スポーツの実施状況」は、1週間から1ヶ月間の運動・スポーツ実施頻度を調査し、運動習慣の程度を評価する。体力・運動能力の向上の取組では、「しない」群の運動習慣化が極めて重要な課題である。取組におけるPDCAサイクルで、「しない」群の減少を評価(Check)することが必要である。また、「ほとんど毎日」群の体力合計点は全国平均値を上回ることから、取組において「ほとんど毎日」群の増加と「しない」群の減少が目標となる(172ページ、190ページ参照)。

「1日の運動・スポーツ実施時間」は、運動時間を調査するために、運動・スポーツの頻度とともに重要な項目である。「2時間以上」群は活発な運動部活動・スポーツクラブ活動群である。運動・スポーツ時間が1日60分以上、1週間で420分以上群は、1週間で420分未満群に比較して体力合計点に大きな差を示すことから、「1日に60分以上」の運動・スポーツ時間が運動習慣化の目安となる(168ページ、186ページ参照)。

表4-8 運動・スポーツ習慣・実施状況の調査項目(平成22年度全国体力調査児童調査票)

<p>4 運動部やスポーツクラブには入っていますか。 (スポーツ少年団をふくみます)</p>	<p>1. はいっている      2. はいっていない</p>
<p>5 運動やスポーツをどのくらいしていますか。 (学校の体育の授業をのぞきます)</p>	<p>1. ほとんど毎日(週に3日以上)      2. ときどき(週に1~2日くらい) 3. ときたま(月に1~3日くらい)      4. しない</p>
<p>6 運動やスポーツをするときは、1日にどのくらいの時間しますか。 (学校の体育の授業をのぞきます)</p>	<p>1. 30分未満      2. 30分以上1時間未満 3. 1時間以上2時間未満      4. 2時間以上</p>
<p>13 質問 9について詳しく教えてください。 平日(月曜日から金曜日)では、平均して1日にどのくらいの時間、運動やスポーツをしていますか。(学校の体育の授業をのぞきます)</p> <p>13-2 放課後や下校後に運動やスポーツをしている人は、平日(月曜日から金曜日)にどこで運動やスポーツをしていますか。(あてはまるものすべてに○)</p>	<p>1. 朝始業前 <input type="text"/> 分      2. 中休み(20分休みなど) <input type="text"/> 分 3. 昼休み <input type="text"/> 分 4. 放課後(下校までの時間に) <input type="text"/> 時間 <input type="text"/> 分 5. 下校後 <input type="text"/> 時間 <input type="text"/> 分</p> <p>1. 学校の運動部の活動 2. 1.以外の地域のスポーツクラブなど(スポーツ少年団をふくむ) 3. 1.2以外(地域のスポーツ教室、児童館での活動など) 4. どこにもはいらないうでしている</p>
<p>14 土曜日に運動やスポーツをしていますか。</p> <p>14-2 「している」と答えた人は、ひと月(4週間)あたり何回の土曜日に、運動やスポーツをしていますか。</p> <p>14-3 「している」と答えた人は、土曜日に1日平均して、どのくらいの時間、運動やスポーツをしていますか。</p> <p>14-4 「している」と答えた人は、土曜日にどこで運動やスポーツをしていますか。(あてはまるものすべてに○)</p>	<p>1. している      「している」と答えた人は 14-2, 14-3, 14-4 へ      2. していない      「していない」と答えた人は 15 へ</p> <p>1. 月に1回      2. 月に2回 3. 月に3回      4. 月に4回</p> <p><input type="text"/> 時間 <input type="text"/> 分</p> <p>1. 学校の運動部の活動 2. 1.以外の地域のスポーツクラブなど(スポーツ少年団をふくむ) 3. 1.2以外(地域のスポーツ教室、児童館での活動など) 4. どこにもはいらないうでしている</p>
<p>15 日曜日に運動やスポーツをしていますか。</p> <p>15-2 「している」と答えた人は、ひと月(4週間)あたり何回の日曜日に、運動やスポーツをしていますか。</p> <p>15-3 「している」と答えた人は、日曜日に1日平均して、どのくらいの時間、運動やスポーツをしていますか。</p> <p>15-4 「している」と答えた人は、日曜日にどこで運動やスポーツをしていますか。(あてはまるものすべてに○)</p>	<p>1. している      「している」と答えた人は 15-2, 15-3, 15-4 へ      2. していない      「していない」と答えた人は 16 へ</p> <p>1. 月に1回      2. 月に2回 3. 月に3回      4. 月に4回</p> <p><input type="text"/> 時間 <input type="text"/> 分</p> <p>1. 学校の運動部の活動 2. 1.以外の地域のスポーツクラブなど(スポーツ少年団をふくむ) 3. 1.2以外(地域のスポーツ教室、児童館での活動など) 4. どこにもはいらないうでしている</p>

### (5) 1週間の運動・スポーツの実施状況を測る

全国体力調査では、質問紙調査票を用いて、1週間の運動・スポーツの実施状況を調査している。上の表4-8の運動・スポーツ実施状況項目から「1週間の運動・スポーツ実施時間(1週間の総運動時間)」を算出している。1週間単位の運動時間を平日・土日別に調査することで、子どもの運動習慣について、より詳細な実態把握と分析に活用している。

#### 1) 1週間の総運動時間の計算方法

1週間の総運動時間は、次のように求めることができる。

1週間の総運動時間は、平日5日間と土曜日と日曜日の運動時間の総和である。

1週間の総運動時間 = 平日の総運動時間 + 土曜日の総運動時間 + 日曜日の総運動時間

平日の総運動時間は、1日の時間帯別運動時間の総和と平日5日間の運動日数の積である。

平日の運動時間=1日の時間帯別運動時間の総和×平日5日間の運動日数

土曜日の総運動時間は、土曜日の運動時間と1ヶ月間（4週間）の土曜日の運動日数の積である。

土曜日の総運動時間=土曜日の運動時間×1ヶ月間の土曜日の運動日数

日曜日の総運動時間は、日曜日の運動時間と1ヶ月間（4週間）の日曜日の運動日数の積である。

日曜日の総運動時間=日曜日の運動時間×1ヶ月間の日曜日の運動日数

全国体力調査では、表4-8の質問紙の選択項目を以下の数字に置き換えて、算出している。

#### ■1週間の総運動時間の算出方法

- ① 平日の運動時間：時間帯別運動時間【質問13】を合計
- ② 平日の運動日数：【質問5】の回答を次のように換算（1=4日）（2=1.5日）（3=0.5日）（4=0.1日）
- ③ 平日の総運動時間：平日の運動時間①×平日の運動日数②
- ④ 土曜日の運動日数：【質問14-2】の回答を次のように換算（1=0.25日）（2=0.5日）（3=0.75日）（4=1日）
- ⑤ 土曜日の総運動時間：土曜日の運動時間【質問14-3】×土曜日の運動日数④
- ⑥ 日曜日の運動日数：【質問15-2】の回答を次のように換算（1=0.25日）（2=0.5日）（3=0.75日）（4=1日）
- ⑦ 日曜日の総運動時間：日曜日の運動時間【質問15-3】×日曜日の運動日数⑥
- ⑧ 1週間の総運動時間：平日の総運動時間③+土曜日の総運動時間⑤+日曜日の総運動時間⑦

## 2) 1週間の総運動時間から見えてくるもの

1週間の総運動時間の増加は、運動習慣の改善効果を評価する極めて重要な指標である。平成22年度の全国体力調査の結果では、「運動をしない群」は「1週間の総運動時間が60分未満」が多い。中学生女子では、「1週間の総運動時間が60分未満」の生徒が30%を超えている。60分未満の内訳は「まったくしない（0分）」が約50%である（18、19ページ参照）。

学校での体力・運動能力向上の取組においては、児童生徒の1週間の総運動時間を算出するとともに、各学年における1週間の総運動時間が60分未満の比率を算出することが重要である。特に、中学生女子は1週間の総運動時間が60分未満群が多いことから、この群の運動・スポーツ習慣を改善するための取組が極めて重要な課題である。

運動部活動やスポーツクラブへの参加は、運動時間が確保できるという点から、1週間の総運動時間の増加につながっている。したがって、学校では、目標水準を設定した上で、運動部活動やスポーツクラブへの参加を促す取組を計画することが重要である。

### (6) 運動・スポーツ肯定感を測る

表4-9は、運動・スポーツ肯定感の調査項目を示している。全国体力調査では、運動・スポーツ活動を生み出す心理的要因として、運動・スポーツの「好感」「有能感」「意欲」を調査している。これらの運動・スポーツ肯定感の項目と1週間の総運動時間及び体力合計点との間には関連があり、運動・スポーツ活動の促進を通して体力・運動能力を向上するためには、重要な項目である（173ページ、191ページ参照）。

表4-9 運動・スポーツ肯定感の調査項目(平成22年度全国体力調査児童調査票)

20	運動やスポーツをすることは好きですか。	1. 好き	2. やや好き	3. ややきらい	4. きらい
21	運動やスポーツをすることは得意ですか。	1. 得意	2. やや得意	3. やや不得意	4. 不得意
22	運動やスポーツをもっとしたいと思いませんか。	1. 思う	2. やや思う	3. あまり思わない	4. 思わない

学校の取組では、運動やスポーツをすることが「好き」、運動・スポーツをすることが「得意」、運動・スポーツを「もっとしたい」の群の割合を増加することが重要である。また、体育・保健体育の各領域において「運動・スポーツができるようになる」学習指導への改善を図ることが重要なポイントである。取組の成果と課題として、これら3項目の運動・スポーツ肯定感の割合の向上を確認することができる。

### (7) 生活習慣を測る

表4-10は、生活習慣の調査項目を示している。生活習慣の項目と1週間の総運動時間及び体力合計点との間には関連があることから、児童生徒の基本的な生活習慣を整えるための重要な項目である。全国体力調査では、質問紙調査票を用いて生活習慣を調査している。生活習慣項目は、「運動・食事・休養（睡眠）の健康の3原則」に基づいている。

学校の取組では、朝食を「毎日食べる」、睡眠時間が小学生では「8時間以上」、中学生では「6時間以上8時間未満」の群の割合を増加させ、1日のテレビ等視聴時間は「3時間未満」に抑えることが有効である（174ページ、192ページ参照）。

表4-10 生活習慣の調査項目(平成22年度全国体力調査児童調査票)

7	朝食は食べますか。	1. 毎日食べる	2. ときどき食べない	3. 毎日食べない	
8	1日の睡眠時間	1. 6時間未満	2. 6時間以上8時間未満	3. 8時間以上	
9	1日にどのくらいテレビを見ますか。 (テレビゲームもふくみます)	1. 1時間未満	2. 1時間以上2時間未満	3. 2時間以上3時間未満	4. 3時間以上

### (8) 体育・保健体育の授業についての意識を測る

表4-11は、全国体力調査での体育・保健体育授業についての意識に関する調査項目である。体育・保健体育授業によって、「コツがわかる」「うまくできるようになる」「楽しい」「体育の授業で学習した運動やスポーツを授業以外でする」というような過程を経て、運動習慣が改善し、体力・運動能力が向上することを想定している。これらの項目は体力合計点との間に関連があることから、体育・保健体育授業の改善への取組のために重要な項目である（176ページ、194ページ参照）。

表4-11 体育・保健体育の授業についての意識の調査項目(平成21年度全国体力調査児童調査票)

17	体育の授業は楽しいですか。	1. 楽しい 3. あまり楽しくない	2. やや楽しい 4. 楽しくない
18	体育の授業では、体の動かし方や、うまくなるためのコツがわかりましたか。	1. わかった 3. あまりわからなかった	2. ややわかった 4. わからなかった
19	体育の授業では、運動やスポーツが今までよりもうまくなるようになりましたか。	1. うまくできるようになった 2. ややうまくできるようになった 3. あまりうまくできるようにならなかった 4. うまくできるようにならなかった	
20	体育の授業で学んだ運動やスポーツを、休み時間、放課後、自宅など、授業以外のときにしていますか。	1. している 3. あまりしていない	2. ややしている 4. していない

### (9) 学校の取組状況を測る

表4-12は、学校での取組の調査項目である。全国体力調査では、学校での体力・運動能力向上の取組状況について調査している。

「継続的な取組を実施している」「運動習慣を確立するための手だて」「地域の人材を活用している」「運動やスポーツ、子どもの体力について家庭と連携をしている」「全国体力調査の結果を踏まえた取組をしている」学校では、運動習慣や生活習慣の改善効果と体力・運動能力の向上が見られることから、これらの項目から取組の成果と課題を確認して、取組のPDCAサイクルにおける改善と計画を推進することができる。

表4-12 学校での取組状況の調査項目①(平成22年度全国体力調査学校質問紙調査票・小学校)

1 学校として、体育の授業以外の時間に、児童の体力の向上に関する取組を実施していますか。(複数回答可)	1. 継続的な取組をしている 2. 特定の日に、スポーツ選手を招聘して実技指導などを行うような、運動やスポーツに関する啓発的な取組を実施している 3. 特に取り組んでいない
1-2 質問1で「継続的な取組をしている」と回答した学校は、どのくらいの期間継続して実施していますか。	1. 3か月未満    2. 6か月程度    3. 1年以上
2 児童の運動習慣を確立するために、体育の授業以外の時間に何か手だてをしていますか。	1. している    2. していない
2-2 質問2で「している」と回答した学校は、具体的にどのようなことをしていますか。(複数回答可)	1. 休み時間などに、全員が運動やスポーツをする時間などを設定している 2. 帰宅後や休日には児童が積極的に体を動かすよう保護者に働きかけをしている 3. 地域と連携して、児童が運動やスポーツをする機会をつくっている 4. その他
2-2 質問2で「している」と回答した学校は、具体的にどのような場面で、1年間にどのくらい活用していますか。(複数回答可) ※回答は延べ人日…活用した各人の活用延べ日数の総和	1. クラブ活動 ( )人日/年 2. 学校の運動部の活動 ( )人日/年 3. 放課後の運動や遊び ( )人日/年 4. 体育的行事 ( )人日/年 5. 学校が主催する休日の運動やスポーツの活動 ( )人日/年 6. その他 ( )人日/年
3 運動やスポーツ、子どもの体力について、家庭とどのような連携をしていますか。(複数回答可)	1. 児童と家の人が一緒に運動やスポーツをする機会を設けている 2. 家庭に対して児童が運動やスポーツを実施することを啓発するための資料などを配布している 3. 家の人や児童に対して地域の運動やスポーツに関する行事に参加するよう促している 4. 体力に関する調査の結果を家庭に連絡している 5. その他    6. していない
9 学校において、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ、どのような取組をしましたか(取り組む予定ですか)。(複数回答可)	1. 体育の授業改善に取り組んだ(取り組む予定である) 2. 体育の授業以外で、児童の体力向上に関する取組を行った(行う予定である) 3. 家庭に対して児童の体力向上に関する働きかけを行った(行う予定である) 4. その他    5. していない(行う予定はない)



また、体育・保健体育授業の取組を評価する項目として、表4-13の学校質問紙調査票で、体育・保健体育授業における指導の充実、運動量の確保、児童生徒個人への配慮、運動の習慣化、指導形態の充実などを調査している。これらの項目から体育・保健体育授業の取組の成果と課題を検証して、取組のPDCAサイクルにおける改善と計画に活用することができる。

表4-13 学校での取組状況の調査項目②(平成21年度全国体力調査学校質問紙調査票・小学校)

5 体育の授業では、体の動かし方や運動の仕方を理解させながら、運動ができるようになるための指導を重視していますか。	1. している 3. あまりしていない	2. ややしている 4. していない
6 体育の授業では、児童の適切な運動量が確保できるように指導を工夫していますか。	1. している 3. あまりしていない	2. ややしている 4. していない
7 体育の授業では、発育発達や個人差を踏まえた指導に配慮していますか。	1. している 3. あまりしていない	2. ややしている 4. していない
8 体育の授業では、運動しない児童に運動を習慣化させるための取組をしていますか。	1. している 3. あまりしていない	2. ややしている 4. していない
9 体育の専門性などを重視した指導を実施していますか。 (複数回答可)	1. 体育専科教員を配置している 2. 外部人材を活用している 3. ティーム・ティーチングを実施している 4. 交換授業を実施している 5. その他	6. していない

